

- しごとに誇りをもち、栄えるまちをつくります。
- きまりを守り、住みよいまちをつくります。
- からだをきたえ、明るいまちをつくります。
- 教養をたかめ、文化のまちをつくります。
- たがいに助けあい、楽しいまちをつくります。

今、いしおか
会いたい。
未来に
ときめきの

無限の可能性を秘めて

市制施行、三十周年おめでとうございます。

昭和二十九年二月十一日、わが石岡市が誕生して、既に三十年の歳月が流れました。

この間、当市をとりまく環境の変化はめまぐるしく、社会経済情勢は各般にわたって、変遷

きわまりないものがありました。

その渦中にまぎれることなく、市勢が発展の一途をたどつて来ましたことは、

歴代市長の市政運営に対する的確な判断と、政策決定に適正な審議をされた議会との協調の成果であり、加えて市民各位の市政に対する深い理解と御協力の賜であると存じます。



議長 福田才二

市制施行の向

本市は、古代から政治・経済・文化の中心として栄え、今もなお文化財の宝庫であります。

我々はこれら先人の残した、貴重な文化的遺産の継承に務め、

今後の施策の上に生かしてゆく必要があります。

住みよい、心豊かな街づくりを目指す石岡の未来には、大きく飛躍する無限の可能性を秘めていると思います。

上に必要な施策の選択を誤らず、的確な判断を強力に推進してまいります。

今後ますます市勢が伸展することを願い、市民福祉の増進に向かつて、我々議会としても最大の努力をしてゆく所存です。

新しい未来に向かつて

わが石岡市は、昭和二十九年一月十一日、町村合併促進法に基づく新しい市として、全国町村に先駆け一番目に呱々の声を上げました。

旧弊を脱すということは、言

うに易く行うに難い事です。新しい未来に向かつて、これを断行した先人の英知と決断は、それから三十年を経過した今日、正に拍手を以つて称えるべき輝かしい業績であつたと思います。

私は、第十代の市長として、市民の皆さんから市政をお預りしているますが、三十年という歴史の中に集積された行政の成果を貴重な財産として継承し、その重責を双肩に感じています。



市長 鈴木堅太郎

私も住み良い環

境づくりや社会福祉の向上、産業・教育の振興など、明るく豊かな街づくりに邁進する決意です。何とぞ皆様の御指導と御協力をお願い申し上げ御挨拶いたします。

なお、最後に、

私がお祈り申し上

げます。かつて合併の大事業を果たしてくださった川並要先生を始め市政に参画された今は亡き方々のご冥福を、市民の皆さんと共ににお祈り申し上げます。

年と共に行政的な要望や財政的な困難が増えていますが、それは逆に私に対する天の試練と受けとめ、自己鞭撻ながら活路を見いだしたいと思つています。

自治功労

鬼澤賢造、山本吉藏、松木幸三、前野真一、鈴木嘉市、前島雅光、大山安一、福田才二、中村清次郎、上野善夫、豊島喜世金、小池清、塚原治雄、金井一夫、島田保、高野薰、川島操、関沢元次郎、中村芳夫、糸賀悌治、長島卯之助、田上嘉一郎、酒葉重雄、小松崎文次郎、一色俊一郎、島角純祐、山本芳造、青柳新兵衛、冷水義正、背黒忠雄、田崎育造、石川重知、石崎孝、桜井藏太郎、平井金吾、比氣文作、長吉田利達、前野秀明、久保庭淳、大橋初江、小野瀬一枝、伊野和恵、飯田俊秀、小倉きよ、田上吉川定雄、高柴義孝、長島きよ子、木暮亘、千葉まち、井坂恵次、大吉繁雄、小倉憲司、上曾よね、高野慶子、高野輝雄、大山美智子、南條あい子、中島義一、植田正己、風間次雄、友水忠、菊地善雄

篠原鑑明、福田欣次、三城教文、服部農夫雄、前沢義久、藤枝藤子、海老沢光義、杉下てつ、飯塚彦三郎、木村かつ、鶴巣悌、岩瀬季博、青木光一、根崎光一、齊藤浩とみ、鬼沢くに、白幡勝雄、滝田

市制施行30周年に当たり、これまで市政に功労のあった方々172人と寄附・善行のあった方々11人と13団体に、それぞれ表彰状と感謝状が贈されました。

183人・13団体が表彰

民生福祉功劳

山内和治、岡野仁、鈴木良一、本橋勝之助、村山裕、山本秀次郎、鈴木清、宮本恵一郎、芹沢雄一、島田実、比氣武、大塚繁、幕内文子

教育功劳

小松崎正、内藤清市、廣瀬溜、山本久夫、黒川信之、永山貴士、菊地善雄

産業功劳

吉川定雄、高柴義孝、長島きよ子、木暮亘、千葉まち、井坂恵次、大吉繁雄、小倉憲司、上曾よね、高野慶子、高野輝雄、大山美智子、南條あい子、中島義一、植田正己、風間次雄、友水忠、菊地善雄

統計功劳

川並輝、山内安次、川並寛

開発事業功劳

小松原実、大土康一、須田勝夫、奥田克宣、山口義衛、長谷川幸久、田崎克夫、山口萬太郎、比氣茂美、幕内又兵衛、狩野昌司、加瀬克彦、篠本泰征男、川口清、元木栄一、塚本泰

防災功劳

豊崎清、小松崎通雄、中村定男、藤枝弘、長谷川実、名畠吉松、山口福次、高野修、高野敏男、小泉三郎、小松崎亨、木沢敏男、栗原康、森宗春、菊地平次、村田敏夫、當盤桂吉、立川健一、細井路雄、長谷川瑛、富田操

▼現在の石岡市役所

「市民本位の業務」を心がけ、「いつも笑顔の応待で」住民サービスにつとめています。昭和59年10月1日現在の人口 49,379人



▼30年前の高浜駅

市の誕生を祝って高浜駅前でも祝賀会が行われました。横断幕や仮装行列、駅前は誕生を祝う大勢の人々でうずまきました。



▼現在の高浜駅

高浜駅は、観光石岡の一役を担う南の玄関口。新装なった駅舎からは、各地からの釣客が降りてきます。



▼30年前の中町通り

昭和29年2月11日、市の誕生を祝って行われた時代風俗行列。上古代・平安・鎌倉・室町・桃山・江戸と各時代の絢爛（けんらん）たる絵巻が出現しました。



►現在の中町通り

そして、今の中町通り。様変りした街並には現代的な光があふれています。歩道にあったプラタナスの並木は今はなく、カラー歩道とアーケードが長く続いています。

►市報355号（最新号）

市報の最新号は「石岡市30年の歩み」と題して、市の誕生からこれまでを振り返っています。

創刊当時と比べて文字と字体に今昔の感があります。



▼創刊当時の市報（8号）

昭和29年12月に発行された「三村・関川村合併記念特集号」のトップは、川並要市長と関川・三村の両村長との握手している象徴的姿が。

また、紙面の後半には「新市建設計画」が14項目にわたり掲載されています。



| 昭和37年 | 昭和36年 | 昭和35年 | 昭和34年 | 昭和33年 | 昭和32年 | 昭和31年 | 昭和30年 | 昭和29年 |
|--|---|---|--|-----------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|---|---|
| 城南中学校第2期工事完成 上水道事業着手 「湖北水道組合」を設立 | 府中中学校第2期工事完成 青少年問題協議会が発足 交通安全推進協議会の結成 し尿処理場が完成 | 常磐線電化、上野～勝田間が開通 東小学校第2期工事が完成 大藏大臣表彰 | 三村小学校第2期工事が完成 府中中学校新築第1期工事が完成 石岡家畜市場が完成 有線放送電話の開通 | 消防本部発足10周年記念式典 新市建設計画に着手 | 東小学校第1期工事が完成 市営住宅20戸が完成 市議会議員選挙 | 市長・市議会議員選挙 市営火葬場が完成 青年研修所が完成 | 市社会福祉協議会の結成 三村地内坂井戸橋竣工 新農村建設事業特別助成地 市内八木地区までバス開通 市営バス池公園が完成 | 2月11日高浜町を合併し合併促進法施行全国第1番目の市として発足 市長・市議会議員選挙 杉並分校を新設 石岡商工会議所が開所 市社会福祉協議会の結成 市営じん芥焼却場完成 市長・市議会議員選挙 市公館落成 |

| 昭和45年 | 昭和44年 | 昭和43年 | 昭和42年 | 昭和41年 | 昭和40年 | 昭和39年 | 昭和38年 |
|---|--|---|--|--|---|---|--|
| 市民プールが完成 都市計画法による市街化区 老人憩の家が完成 市街調整区域の決定 | 常陸國府跡の発掘調査 国分寺、尼寺の発掘調査 三村地区農集電話が開通 チビッコ広場が完成 當農研修センターが完成 | 城南中学校第2期工事完成 陣屋門県有形文化財に指定 石岡小学校第2期工事完成 市民会館が完成 | 石岡小学校第1期工事完成 市立第2保育所が完成 市長・市議会議員選挙 | 府中橋が完成 三村小学校第1期工事完成 農業共済事業、市に移譲 石岡地区農業近代化施設整備 市議会議員の補欠選挙 | 城南中学校体育館完成 府中学校第3期工事完成 山王川都市下水路第2期工事が完成 市議会議員の補欠選挙 | 石岡台土地改良事業国営調査の開始 市立児童館が開館 首都圏市街地開発区域指定 市制施行10周年記念式典 府中学校第1期工事完成 | 市長・市議会議員選挙 石岡小学校ブールが完成 三村地内の大塚橋が完成 「市開発公社」を設立 県立石岡商業高校第1期工事に着手 |

主なできごと

▼市制施行時の土橋通り

料飲組合の協力によって掛けられた土橋通り入口の大きなアーチ。その中央部には直径約50センチの市のマークが。まもなく8,800人の小・中学生による旗行列が現われます。



▶現在の土橋通り

土橋通りの正面には、市民会館の大
な建物が。道路の左側には、通学の
ための歩道が確保されています。



▶昭和33年の柏原池



►昭和33年の柏原池



◆現在の柏原池
昭和54年度から昭和60年度までの都市計画柏原池公園事業（約4.9ヘクタール）が進められています。新島から送られたモヤイ像も完成を待っています。竜神山もずいぶん形が変わりました。



市制施行を祝う石岡駅前の歓迎アーチ
“すがすがしい杉の香り豊かに萬国旗を
配した大アーチは、快晴に恵まれた三日
前に、十数万の観客を迎えた”とあります。



▶現在の石岡駅前
駅前通り商店街でアーケードやカラーリー歩道を設置し、近代的で魅力ある商店街づくりが進められています。



▶北小学校での昼食風景
給食センターで作られた昼食を机に白いクロスをかけ、楽しい昼小学生の数四、五六七名です。



市制30周年記念・市長対談



市制施行30年を迎えた石岡市。

それを祝って来てくれたのが、ふるさとを茨城にもつ女優・浅丘ルリ子さん。

14歳でデビューした浅丘さんも丁度芸歴30年で、鈴木市長と語り合ったそれぞれの過去・現在・未来とは—。

石岡は、心のまちへ

女 優

石岡市長

鈴木堅太郎

浅丘ルリ子

V

S



浅丘ルリ子——あさおかるりこ。本名・武藤信子。昭和十五年七月二日生まれ。四十四歳。父・浅井源治郎は、満州国経済部大臣秘書官をつとめ、彼女が三歳のとき軍属として家族を連れてタイのバンコクに移住。終戦後、母の実家である茨城県の大津港に身を寄せ、のち東京・神田へ移住。昭和十九年、日活映画「緑はるかに」のヒロイン少女ルリ子役に応募。三千人の中から「バツチリした眼とほつきりした顔立ち」が審査員の目にとまり、同映画に十四歳でデビュー。以後、石原裕次郎や小林旭などと共演し、その清純がファンを引き付けた。映画出演が百本を越す昭和四十年ごろには大人の女優へと華麗に変身。昭和四十三年にゴールデン・アロー大賞を受賞し、日本のトップ女優の座へ一気にかけ昇った。そして、昭和四十六年には俳優石坂浩二と結婚。芸歴三十年を迎えた今日は、テレビドラマを中心で活躍している。



物事に感動する心があれば

鈴木 昔の話ですが、昭和十二、三年ごろ、渋谷からちよつと行つた池尻に軍隊があつて私はそこに居たんです。その時に俳優の佐野周二さんが軍隊に入つて来ましてね。それで多摩川へ

は日活と大映ですから。多摩川沿いにあるの

にあつた撮影所を案内してもらつた事があるんです。

浅丘 ……という事は、今の大映ですか。多摩川沿いにあるの

映画の撮影をしていました。それでねえ、私が見た場面は、お医者さんを迎えて行つた召使が重病の奥さんの伏せつてあるの

居間へ入るという——それだけの場面なんです。

浅丘 そうですか。もう何回もりますでしょ。(笑)

鈴木 ええ。玄関を開けて、『さて奥さんは大丈夫だろうか』と

いう不安とおののきの表情が真に迫つていて、と監督が言う

のです。何回もやり直しをさせられて、单なる召使の役で、そ

んなに厳しく要求するので私はビックリしました。ですから、

ずいぶん映画とはエライものだと考えさせられました。

浅丘 それはもう、今もつてずっと繰り返していますよね。

鈴木 ただ、今は時代がスピード化していますから、そうそう長く

はやつてられないで思ひます。

鈴木 浅丘さんのような名優ともなれば、監督からもう一回な

どという事はないと思います。

鈴木 役になりきるというのは、人間の色々な心の動きに、感

情が敏感に作用していくかないとできませんね。

浅丘 そうです。とても素敵なお話をうつしてくださつて、

本当にうれしいです。私たち人を見てどれだけ感じられるか

がとても大切なことです。何を見ても何があつても、あん

まり感動しなくなつては、これは困つた事ですもの。

鈴木 私も、人の心の痛みをそのまま分かち合つて人間になりた

いえいえ。(笑)

鈴木 役になりきるというのは、人間の色々な心の動きに、感

情が敏感に作用していくかないとできませんね。

浅丘 ええ、玄関を開けて、『さて奥さんは大丈夫だろうか』と

いう不安とおののきの表情が真に迫つていて、と監督が言う

のです。何回もやり直しをさせられて、单なる召使の役で、そ

いと思つています。純感ではありません。
だから、そんな心の持主でないと、とうてい立派な女優さんにはなれない、本当にそう思いますよ。(笑)

浅丘 それは私は、親に感謝したいと思います。

ふるさとは茨城です

浅丘 あんまり市長さん、茨城弁が出ませんねえ。でも、私は聞き慣れているんです。母も親戚も全部茨城ですから。ですか

らとても懐かしいんです、茨城の言葉が。

鈴木 そうですね、ふるさとの言葉は非常に懐かしいですねえ。東北の人間が丸出しのズーズー弁。そこにふるさとの良さを感じます。それを笑われるというような気持でいる必要はないと思ひますね。

浅丘 だから、私の母も「え」と「い」をしょっちゅう間違えますよ。それを笑いながらも、それを聞くとほつとすると

思ひますね。それがもう、今もつてずっと繰り返していますよね。

鈴木 軍隊で中国の南京とか大きな街へ行くと、やっぱり懐かしいのは茨城の言葉。『おや、あいつは茨城かな』と思うと、走り寄つて、『あなたは茨城ですか』と聞きたくなる事がしばしばでした。

浅丘 ええ、だからふるさとがあるというのはすごく良いです

が成つていて食べたら、ものすごくおいしかったとか——そう、

コヤシの臭いとか、すづごくいいんですね。

タバコの素敵なお話

科学万博



石岡からノーベル賞の科学者が生まれたりして

タバコを吸うようになつてしまつたけど、このまま吸つていでしまうか」とこう聞くのです。

『何故だ』と聞くと、留守を守つて戦場の夫の身の上に思いを駆せる時、かすかに唇に残つた夫の残り香が…。

まあ！ 素敵、最高！

浅丘 即、許しましたでしょ。(笑)

鈴木 そうですよ。(笑) それを聞いてね、女性というものの心の動きに感動しました。

浅丘 あつ、皆さんに言つちやお(笑) 本当に素晴らしいお話。

鈴木 そんなお話を聞くと、今の若い人たちは、私も含めて何でぜいたくな、何で我が儘な、と思いますね。女自身が女である事を忘れているのを感じます。

昔の人たちが色々な我慢とか苦労を重ねて生きてきたのに、私なんか仕事をいい事に家事とか妻としての役目はすごくお留守しているんです。

鈴木 夫のタバコのヤニの匂いで、せめて夫をしのぼうと吸うようになつたという訳です。

浅丘 即、許しましたでしょ。(笑)

鈴木 そうですね、ふるさとの言葉は非常に懐かしいですねえ。東北の人間が丸出しのズーズー弁。そこにふるさとの良さを感じます。それを笑われるというような気持でいる必要はないと思ひますね。

浅丘 だから、私の母も「え」と「い」をしょっちゅう間違えますよ。それを笑いながらも、それを聞くとほつとすると

思ひますね。それがもう、今もつてずっと繰り返していますよね。

鈴木 軍隊で中国の南京とか大きな街へ行くと、やっぱり懐かしいのは茨城の言葉。『おや、あいつは茨城かな』と思うと、走り寄つて、『あなたは茨城ですか』と聞きたくなる事がしばしばでした。

浅丘 ええ、だからふるさとがあるというのはすごく良いです

が成つていて食べたら、ものすごくおいしかったとか——そう、

コヤシの臭いとか、すづごくいいんですね。

小川があつてそこで泳いだり、烟に大きな真赤なカボチャ

が成つていて食べたら、ものすごくおいしかったとか——そう、

コヤシの臭いとか、すづごくいいんですね。

浅丘 市長さん、タバコは吸わないんですか。健康を考えてやめられたんですか。

鈴木 ええ、医者に止められました。まあ、自分の健康に影響がなければ、やめる必要はないと思いますよ。深々と吸つて煙を吐くところに心のやすらぎがありますからねえ。(笑)

浅丘 私は逆にイライラしている時とか、仕事の合間にとかぐく増えちゃうんですよね。

鈴木 ;あのねえ——こんな話があるんです。私自身の事ですが、私は結婚して二週間で戦地へ行きました。

浅丘 うわあ！

鈴木 それで、帰つて來たら家内がタバコを吸うようになつていて、『なんで女が……』と思ひました。

浅丘 その当時ですからねえ。

鈴木 私に言つのです。『私は

石岡は心のまちへ

ラツキーだつた私の30年



▲待望の科学万博は来年の3月17日に開幕します。
写真は、完成真近かのいばらきパビリオンの姿です。

浅丘 市制二十周年を迎えて、石岡市は市として完成された姿に近づいていますか。

鈴木 そのままは演出家希望なので、様々な多くの事を知る必要が

あります。だから私は黙つて見ていくのです。

鈴木 しかし、浅丘さんのご経歴を拝見すると、素晴らしい中、二科展に何回も入選されているとか……。

鈴木 ええ、絵は前から好きでしたから、あの方は色々趣味が広いんですね。セリフを覚えながら原稿をワープロで書いたり、寝ないで絵を描いたり、大変です。航空雑誌を五、六冊、科学雑誌を五、六冊、毎月読んでいます。

鈴木 もし科学万博を見たい時は、ぜひ石岡にお寄りください。

鈴木 だから今度の対談の中で科学万博の事もテーマになつてゐるので、どうしようかなと言つたら、『じやあ、僕が代わりに行こうかな』と言つたんです。たまたま仕事が入つて来れませんでしたが……。

鈴木 科学万博の事ですけど、石岡は会場地と接していないので実際のメリットはあんまりないですよね。

鈴木 そうですね。それと『近く』という事が、目に見えない

大きなメリットになつていると思いますね。市民全体が何回で生まれたりして(笑)

鈴木 しかし、浅丘さんのご経歴を拝見すると、素晴らしい

映画はここ三年ぐらい、「寅さん」から出でませんが、TVで「木曜ゴールデン」の中で割と面白いものをやらせてもらっています。アル中に悩む奥さんの役とか、人を殺して刑務所に入った女人とか、北海道に住んでいるまま母の役とか。

鈴木 これも運と申しますか、ラツキーと言うか。子役は中々育たないと言われ、私が十四歳から今日まで米られたのは、ラツキーだったんです。その都度ランプとか悩みがありましたけど。今になつて考へるとそういう事があつたから、逆に良かつたんだなあと思いますね。

鈴木 しかし、浅丘さんのご経歴を拝見すると、素晴らしい

映画はここ三年ぐらい、「寅さん」から出でませんが、TV

で「木曜ゴールデン」の中で割と面白いものをやらせてもらっています。アル中に悩む奥さんの役とか、人を殺して刑務所に

入つた女人とか、北海道に住んでいるまま母の役とか。

鈴木 今やつているのは突発性神経症という、ちょっととしたゴミで

も気に掛かるそういう神経質な女の人の役をやつているんです。

鈴木 色んな面白い、経験した事のないものを次々とやらせてもらっています。

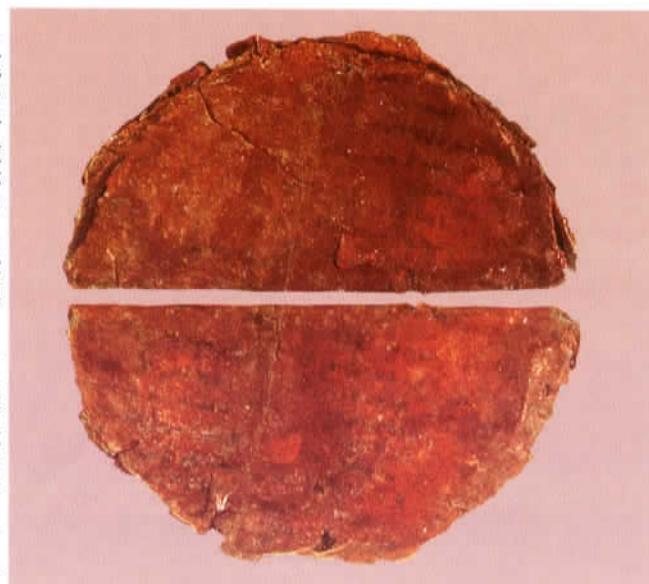
鈴木 だいたい年齢が三、四本ですが、一つ一つ選んで大事にやれるものですから、大変幸せです。

鈴木 色々な立場の人間の心を知つたり、表現できるのは、人

そのものが素晴しい証拠。それぞれ、勉強の積み重ねによつて

仕事の豊かな発展があると思いますね。

鈴木 まさに、良きいえば静かで落ち着きのあるまち、悪くいえ



▶鹿の子遺跡から発掘された漆紙文書には、千二百年前の人口や歴などがある。

は発展性に乏しいまちと言えるでしょう。ですから、もう少し生き生きとした商業都市として活気を作つて行かなければなりません。まあ、しかし、これからは埼玉・千葉に至るいわば静岡方面にしても、ほとんど発展の空白がなくなっています。今度は、どんどん常磐線に沿つて伸びて来ている——こんな風にこれから展望しています。

浅丘 石岡の資料として、市報や「石岡TODAY」を見せていただきましたが、とても暖かい感じがしました。みんなで一所懸命に街を作つている感じが伺えます。すごく親切で暖かい所に思えますね。

鈴木 ですから、東京周辺の大きく発展している所を見ると、そこは人間の心が乾いています。だから石岡はまだ……。

浅丘 このままの方がいいんでは(笑)

石岡は「歴史の里」です

鈴木 開発とか発展のために、そんな心のぬくもりを崩されないよう、大目に見て行きたいと思います。それと石岡市は茨城で一番歴史のある街ですから、「歴史の里」として古い街の良さと先人の残した素晴らしい歴史の遺産を子孫に伝えて行こうと考えています。

ただ、奈良とか京都とは違つて直接目を触れることのできる物がないので……。

浅丘 そういうのがあるとねえ。観光的にも古跡巡りとかできますが。——そう言えば、この間漆の何とかいうのが発見されたそうですね。

鈴木 ええ漆紙文書ですね。ちょっと持つて来て。

浅丘 ええ! 本当、見られるんですか。赤外線で字が書いてあるのが分かつたんですよええ。

鈴木 日本で一番古い紙ですから。

浅丘 千年以上前の奈良時代の中ごろですか。

「心のぬくもりを大切にしたいですね」

うわあ、すごいすごい! これ紙ですか。

鈴木 漆の入つていた壺のフタとして使われていた紙ですがね。

長年の間に紙が漆を吸つて残つたんですね。

浅丘 ヘえー。字は肉眼では見えませんけど。うわあ! 写真

鈴木 感動しちゃう。すごい、これだけ崩れていないなんて。



いしかは、すごく親切であたたかいって感じ

編集後記

五年ぶりにカラー特集号を出した「市報いしか」ですが、いかがだったでしょうか。新しい題材やレイアウト、三十年目の新しいスタートとしていくつかのイメージ・チエンジを図つてみました。特に市民と女優さんとの対談は数年前から考えていたもので、編集部では今回やと実現したという感じです。

ここで心から感謝しなければならないのは、多忙の中都合をつけたノーキヤラに近い形で来てくれた浅丘ルリ子さんです。おかげで記念号が華やかに飾られましたので、これを漆につけて末まで保存しようと思ひます。



▲新しく購入した身障者用のバス「ひまわり号」こんなところにもぬくもりのある街づくりが。